

厚真町

9340 和歌 勇太

1. 厚真町の概要

1.1 地名の由来

厚真という地名は、アイヌ語の「アットマム」(湿地に草が繁茂するという意味)に由来するという説と、「アトマブ」(ニレのある場所という意味)に由来するという説があるが、古い地名であり、さらに訛りもあるため特定が困難な状況である。ただ、アイヌ語が由来となっている点では北海道の他の大部分の市町村となんら変わりはない。

図 1. 町章



出典：厚真町 H P

1.2 歴史

1870 年、新潟から入植した青木与八がまったくの未開の原野であった浜厚真を開拓し、さらに、1884 年には山本鉄太郎が厚真村トニカの開拓にあたった。この 2 人が厚真の生みの親である。

1887 年には振老ではじめて石油が噴出し、大手企業が進出して機械化を図ると、厚真は名実ともに北海道において石油界の王座の地位に君臨した。またこの時期から農業を目的とした入植者が相次ぎ、厚真は著しく発展した。このような状況の中で、1897 年 4 月 1 日、厚真村は苫小牧他六ヶ村戸長役場から独立し、「厚真村」が誕生した。同年 5 月には初めての公立学校が開校され、村としての形を徐々に整えていく。1906 年の 2 級町村制、1915 年の 1 級町村制の施行を経て、1960 年には町制が施行された。1996 年には開基 100 年を迎え、現在至る。

町の犬は厚真犬(北海道犬)、町の花はツツジ、町の鳥はウグイス、町の木はコブシである。中でも厚真犬は大正天皇に献上され、天然記念物としても指定されたという輝かしい歴史をもっている。

図 2. 厚真町の所在地



出典：厚真町 H P

1.3 地理・気候

厚真町は胆振支庁、その中でも北海道の道央ベルト地帯に位置し(東経 141 度 52 分 53 秒、北緯 42 度 43 分 15 秒)、面積は 404.56 平方キロメートルである。苫小牧市、安平町、むかわ町、夕張市、由仁町と隣接しており、また、札幌市まで約 80 分、新千歳空港まで約 35 分、苫小牧市まで約 40 分と近郊の

主要都市に近く、交通に便利な場所である。

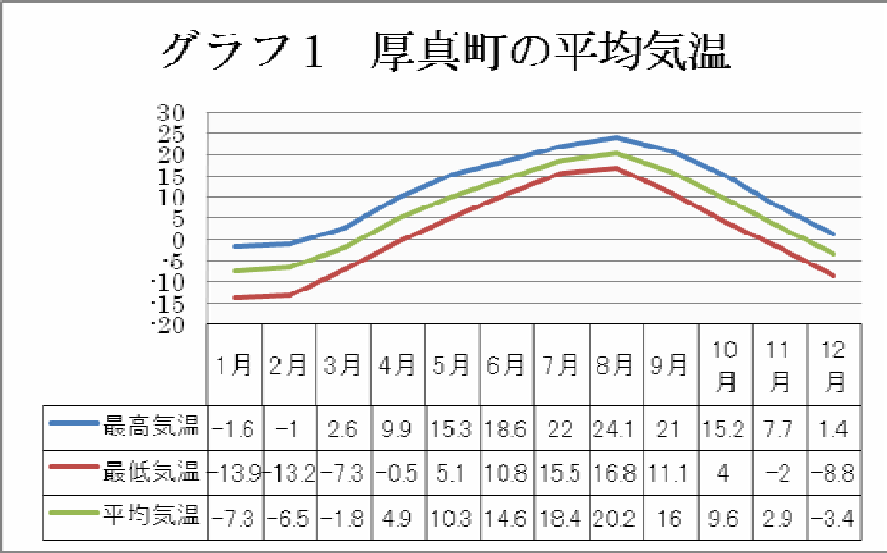
厚真町内は夕張山系を望む広大な森林地帯が広がり、厚真ダムのある北部山岳地域、稲作地帯を形成する中央農業・市街地地域、太平洋に面する南部臨海地域の3地域が存在する。

次に気候であるが、グラフ1からもわかるように冬は北海道の中ではそれほど寒さは厳しくなく、夏は涼しい。これは厚真町が太平洋側西部気候区に属しているからである。そのため8月の雨量が年間で最も多い。

図3. 厚真町の所在地



出典：農林水産省HP



出典：気象庁HP

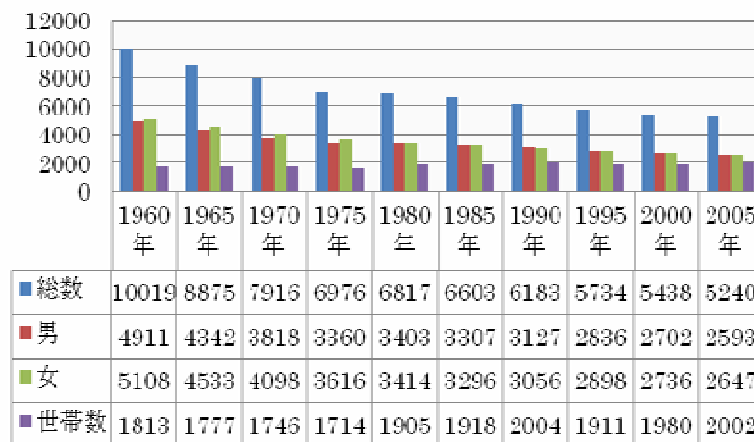
注：統計期間は1979～2000年の22年間

2. 人口・世帯数の推移

厚真町は現在人口減少の一途をたどっている。これはグラフ2からも読み取れることだが、特に町制が施行された1960年から1975年にかけての人口減少が著しく、世帯数も減少している。しかし、1975年からは人口減少が緩やかになり、世帯数はむしろ増加している。このことは単身世帯の増加や核家族化が原因だと思われる。

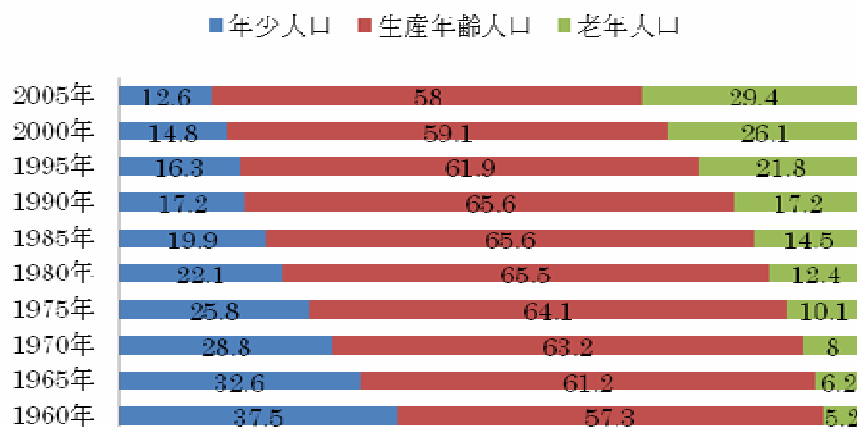
また、グラフ3からは少子高齢化の傾向が見られ、45年間ほぼ一定のペースを保っていることから考えると、今後もこの傾向が続くのではないかと思われる。年少人口の減少がある点まで達すると、現時点でも多少見られるが、次は生産年齢人口の漸次的な減少が懸念される。

グラフ2 人口と世帯数の推移



出典：厚真町HP

グラフ3 年齢三階層別人口



出典：厚真町HP

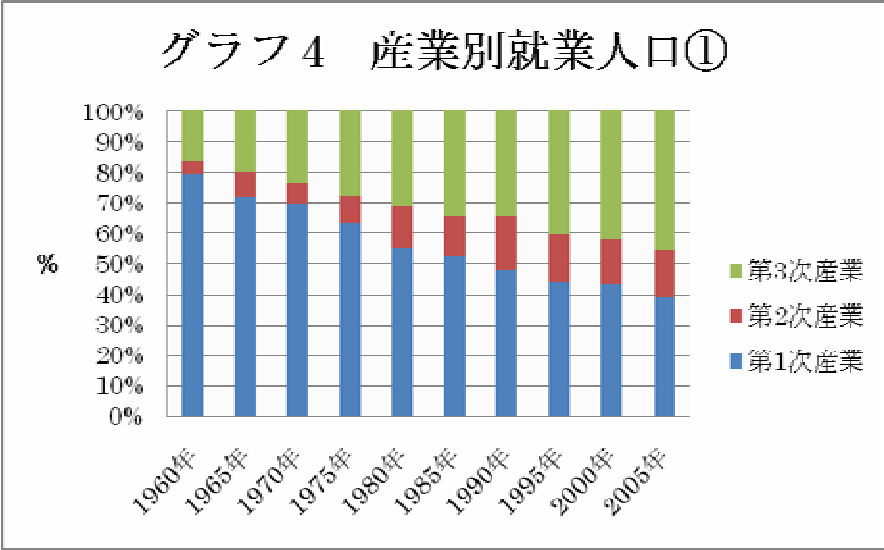
3. 産業

3.1 産業別就業人口

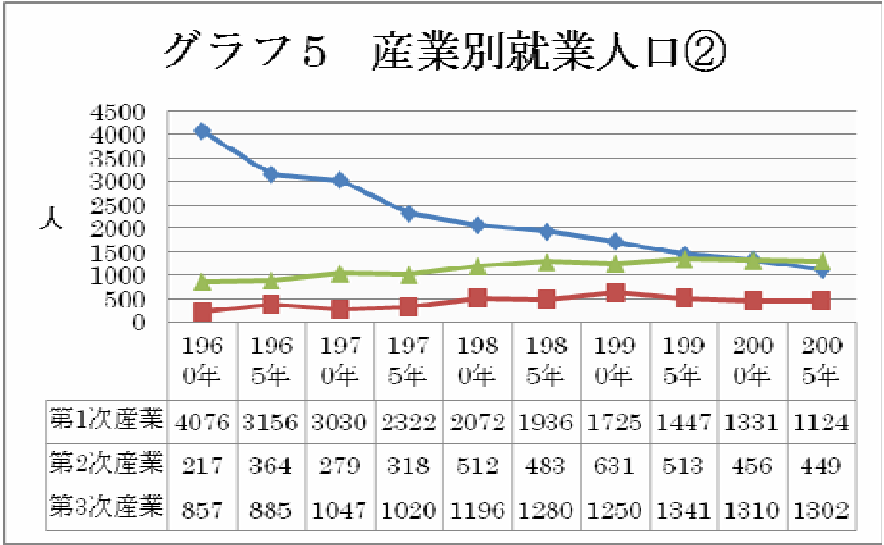
先にも述べた通り厚真町は農業を目的とした入植者によって発展してきた。そのため厚真町の基幹産業は農業を中心とした第1次産業である。グラフ4を見ればわかると思うが、1960年には人口の約80%が第1次産業に就業している。しかし、その割合は現在に向かうにしたがって減少している。一方で第3次産業就業者は増加傾向が続いている。特に2005年には第3次産業就業者の割合が第1次産業就業者の割合を上回ってしまった。

グラフ5は産業別就業人口を人を単位に見たものである。このグラフではグラフ4に比べ第1次産業就業者の減少が急激で、第3次産業就業者の増加は緩やかである。

この2つのグラフを総合して考察すると、人口減少と第1次産業就業者の減少はほぼ等しく、機械化が進み、効率的な経営が可能だといえども、基幹産業の根底を揺るがしかねない事態に直面しているといえる。



出典：厚真町HP



出典：厚真町HP

3.2 農業

厚真町の農業は、水稻栽培を中心に営まれている。明治の開拓期から厚真川水系を利用して作られてきた水稻は品質がよく、『たんとうまい』として消費者から高い評価を得ている。2001年にはブランド米『たんとうまい』の拠点施設として超低温籾貯蔵ステーションが建設され、製品の安全化や品質の均一化が図られ米流通業界からも高い評価を得ている。

また、小麦や大豆などの畑作物も導入されており、特に大豆は極小粒品種の『スズマル』が主体で、納豆用として納豆実需者に好評である。小麦は製麺に優れた品種の『ホクシン』

や製パンに人気の高い品種の『春よ恋』が主に生産されている。そ菜芸では、ホーレンソウ・ブロッコリーやカーネーションなどの収益性が高く商品価値のある野菜や花き栽培も行っている。

畜産は、肉牛、酪農、養豚が営まれ、各種共進会にて好成績を収めている。中でもブロイラーは、生産から加工、製品までの厳しい衛生管理のもとで一貫生産されている。

厚真町では、常に消費者に安心して購買してもらえるような安全で新鮮な農畜産物の生産を心がけている。

グラフ 7 からは米の産出額が全体の約 40%を占めていることがうかがえ、稲作中心であるとわかる。また、畜産部門の産出額も約 25%を占めていることも見逃せない。

3.3 林業・水産業

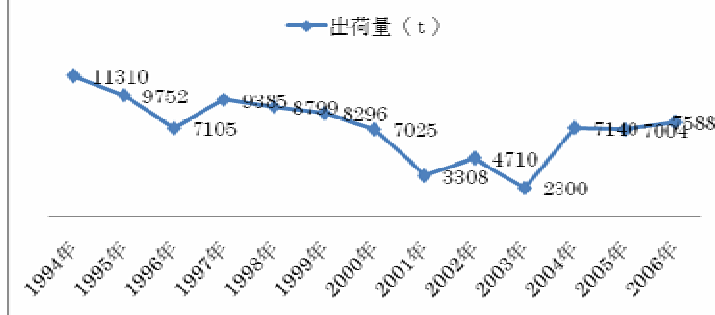
厚真町では広域な山林と太平洋に面する地勢から、林業、水産業も産業の重要な一翼を担っている。

北部、中南部には広大な森林地帯が広がり、地球温暖化の防止や自然環境の保全など、森林の多目的機能の確保に向けた取り組みを推進しており、この森林では、植林と除間伐、林道整備、治山事業などが進められている。また、シイタケ栽培や木炭生産も盛んに行われている。

また、太平洋に面する厚真南部の浜厚真漁港には、イワシやホッケ、シャケ、カレイなどの魚種が揚がる。特に前浜で獲れるホッキ貝は市場で高く評価されている。合わせて、シシャモ、マツカワの種苗放流など、資源管理型の漁業を積極的に推進している。

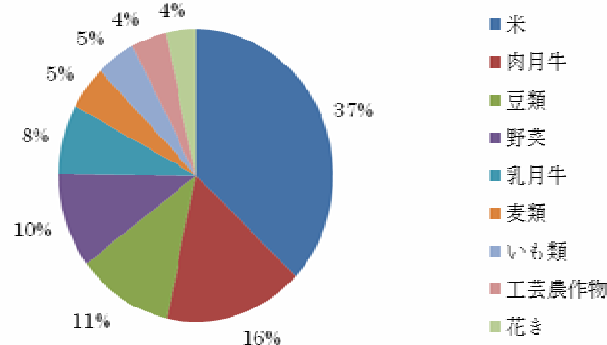
グラフ 8 からは 2005 年に貝類の水揚げ量が前年の約 4 倍になっているが、これはホッキ貝が市場で高く評価されていることから養殖した結果であると思われる。

グラフ6 米出荷状況（もち米含む）



出典：厚真町 H P

グラフ7 農業産出額の内訳



注：1%未満の品目を除く

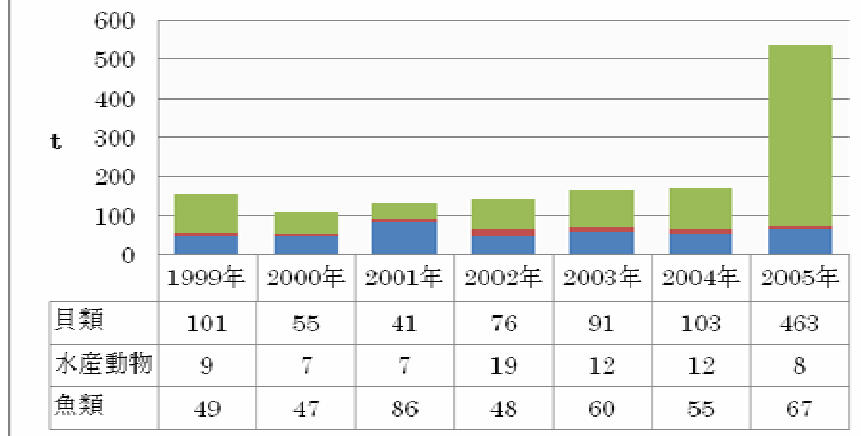
出典：農林水産省 H P

図 4. 漁の様子



出典：厚真町 H P

グラフ8 魚種別水揚げ量



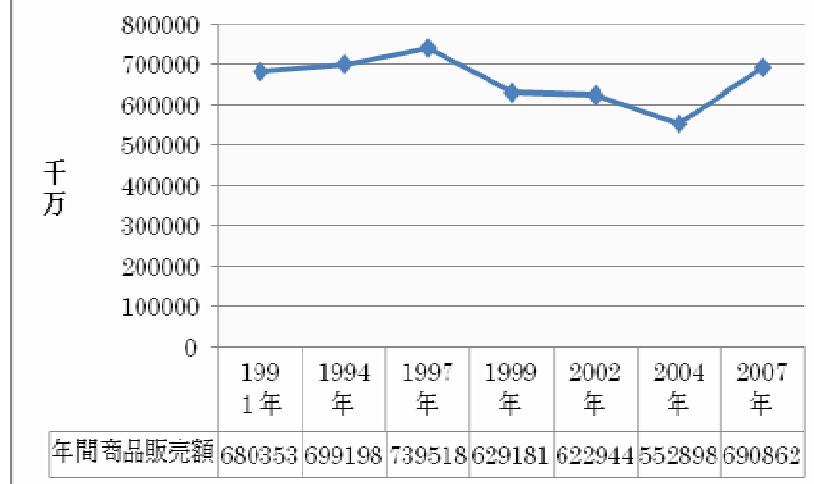
出典：厚真町ＨＰ

3.4 商工業

厚真町の商店街は、近年、土地区画整備事業にあわせて公営住宅の建設や宅地分譲、公園整備、町並み整備などが行われ「快適で魅力のある新しい街」に生まれ変わった。商店街でも、美化活動やイベントなどを開催し、町民に愛されるような地域づくりや地場産業のＰＲに努め、地産地消に向けた経営努力を続けている。

また、町域内にはフェリーターミナルを備えた苫小牧港東港区、高規格幹線道路日高自動車道厚真ＩＣがあり、新千歳空港にも近接しているため、厚真町は道内でも有数の交通の利便性の高さを誇る。このためこの特性を生かした豊富な水資源と広大な土地を有する工業用地が注目されている。その一例として最先端企業や環境問題の研究機関が進出した国家プロジェクト「苫東開発」が挙げられる。

グラフ9 商業の状況

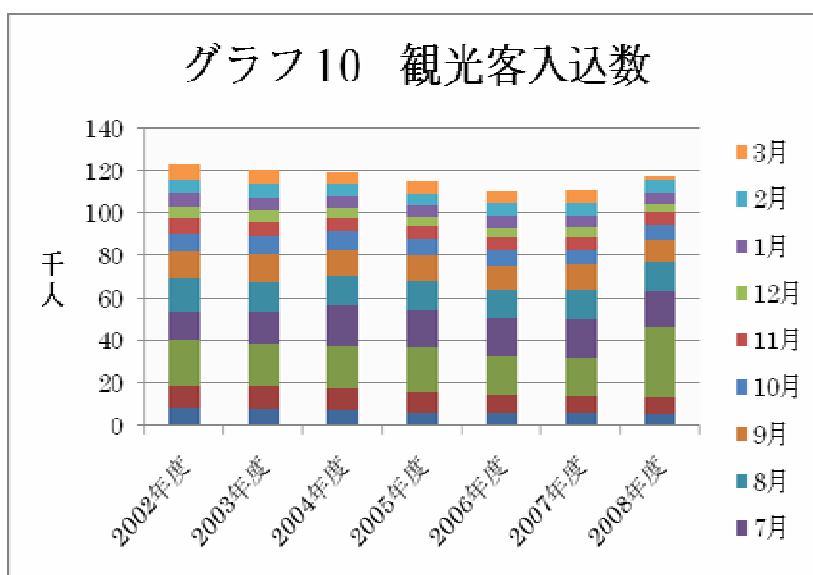


出典：厚真町ＨＰ

4. 観光

4.1 観光客入込数

グラフ 10 から厚真町の観光入込数は微減の傾向であったが、2008 年度には上昇していることがわかる。これは6月の入込数の上昇が一番の要因だと考えられる。2009 年度の入込数が今後の傾向を占う上で重要なサンプルとなるだろう。全体としては夏場の入込数が多い。



出典：北海道公式HP

図 5. ラドン湯

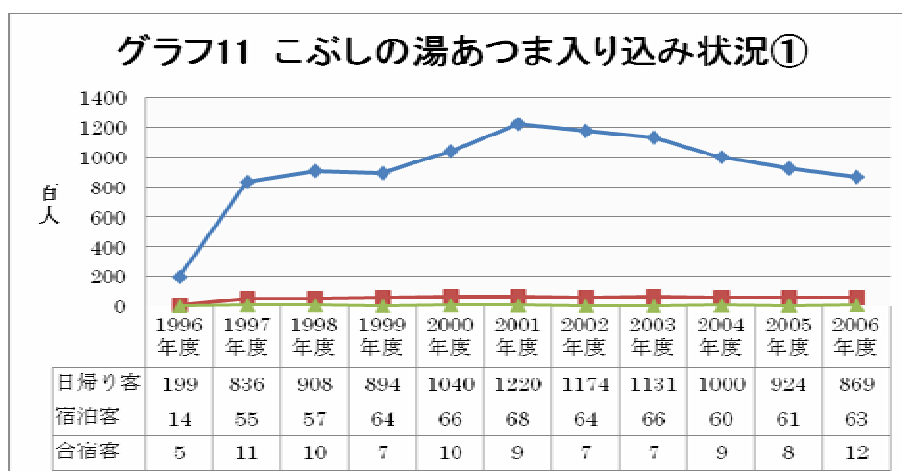
4.2.1 こぶしの湯あつま

農村の四季を味わいながら温泉気分を味わえる入浴施設である。ラドン湯、サウナ、泡風呂をはじめ露天風呂も完備されており、雄大な景色を眺めることができる。また、ご宴会プランやパークゴルフ+宿泊セットプラン、日帰りパックプランなど様々なプランが用意されており用途に応じて柔軟な使用が可能である。



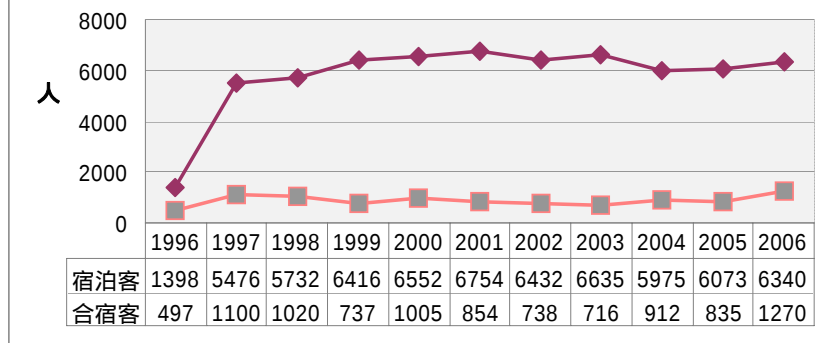
出典：こぶしの湯あつま

入り込み数についてはグラフ 11 を見ると全利用者における日帰り客が圧倒的に多いことがわかる。ただ、このグラフでは宿泊客と合宿客の推移が分かりにくいのでグラフ 12 を用意した。このグラフからは合宿客の推移はほぼ横ばいで、宿泊客の推移も 1996 年度を除いてはこちらもほぼ横ばいである。



出典：厚真町HP

グラフ12 こぶしの湯あつま入り込み状況



出典：厚真町HP

4.2.2 大沼フィッシングパーク・野営場

鯉沼地区にある大型のコイやフナなどの淡水魚が釣れるフィッシングパークである。この大沼にはハスの花が咲いており、また、沼のほとりには大沼野営場と野外炊事場があり、貸出テントも用意されている。野営場というだけあり、施設はシンプルである。あまり整備されていない分、手つかずの自然の良さが感じられる。年間約500人以上が利用しており、キャンプと釣りの両方を楽しんでいる。

図6. 大沼



出典：厚真町HP

参考HP

- ・厚真町役場ホームページ：<http://www.town.atsuma.lg.jp/>
- ・気象庁：
http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/nml_and_ym.php?prec_no=21&prec_ch=%92%90U%8Ex%92%A1&block_no=0124&block_ch=%8C%FA%90%5E&year=&month=&day=&elm=normal&view=
- ・ウィキペディア：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8E%9A%E7%9C%9F%E7%94%BA>
- ・北海道の公式ホームページ：
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/ske/contents/marinehp/html/f1kensaku/doh_gsn_014.htm
- ・こぶしの湯あつま：<http://www.kobushi-atsuma.com/>
- ・厚真大沼野営場：http://www.bfh.jp/theme/theme_searchdetail/60030401701/
- ・農林水産省「市町村の姿」：
<http://www.tdb.maff.go.jp/machimura/map2/01-01/581/agriculture.html>